

※ 網掛けのない部分が計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童生徒像含む）

人間尊重の教育を基盤に自ら学び，自ら考え，主体的に判断して生きていくことのできる，心身ともに健康で，心豊かな，たくましい児童を育成する。

【1】明るく元気な子ども 【2】よく考えて学習する子ども 【3】心豊かで思いやりのある子ども

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

「元気いっぱい 夢いっぱい 笑顔あふれる学校づくり」

教育目標の達成を目指し，子どもを中心とした活力に満ちた明るく，楽しい学校づくりをするために，全職員が**和と協力，熱意，そして人間尊重の精神**を基盤に『生きる力』を育む教育に取り組み，活力に満ちた特色ある学校経営を推進する。

3 学校経営の方針（中期的視点）

- （1）一人一人のよさを認め，居がいのある学校・学級づくり，活力に満ちた教育活動の展開に努める。
(学級経営の充実)
- （2）基礎・基本の確実な定着を図り，体験的な学習や問題解決的な学習をととして，学ぶことの楽しさや成就感を体得させ，自ら学び，自ら考える力の育成に努める。
(学習指導の充実)
- （3）情操豊かな教育環境の充実と「命あるものを大切に作る心」「思いやりの心」など心豊かでたくましい子どもの育成に努める。
(豊かな心の育成)
- （4）進んで運動に親しみ，健やかな体を育む体育指導の充実を図り，保健安全・運動の推進に努める。
(体力の向上と保健安全教育の充実)
- （5）学校園としての共通理解を図りながら，小中一貫教育を推進する。
(小中一貫教育の推進)
- （6）常に自己の資質向上に努め，子どもや保護者から信頼される教職員集団を目指す。
(教職員の資質の向上)
- （7）全教職員の共通理解のもと，児童（保護者）と教職員との信頼関係を深め，日常の触れ合いをととして，児童指導の充実・基本的生活習慣の確立に努める。
(児童指導の充実)
- （8）家庭や地域との連携を密にしながら，開かれた学校の推進に努める。
(家庭・地域社会の連携・開かれた学校)

4 今年度の重点目標（短期的視点）

- （1）学校運営
 - ・ 豊かな体験活動や道徳教育をととして，豊かな心を育む教育の推進に努める。
- （2）学習指導
 - ・ 「分かる」「できる」授業づくりに努める。
- （3）道徳教育（児童生徒指導）
 - ・ 人との関わりを大切にしながら生活し，正しく判断し行動できる児童の育成に努める。
- （4）健康（保健安全・食育）・体力
 - ・ 自分の体の状態を知り，健康・体力の向上，運動技能の習得に励む児童の育成に努める。

5 自己評価（A は共通評価指標、B は学校独自評価指標）

（評価指標の〔全〕は、全体アンケート実施）

（「主な具体的な取組の方向性」には、A 拡充 B 継続 C 縮小・廃止、を自己評価時に記入）

項目	評価指標	主な具体的な取組	方向性	評価
教育全体の状況	A1 学校は、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。〔全〕 【数値指標】 全体アンケートの「私は今の学校が好きである」→児童の肯定的回答90%以上	①学校行事に児童が自主的・主体的に取り組む場の設定と教師による適切な指導・支援・助言 ②児童の学習意欲を高める授業の工夫		【達成状況】 A1 学校は活気があり明るくいきいきとした雰囲気である 達成 96.7 A2 教職員は良いところを認め熱心 達成 97.0 A3 児童は授業と生活のきまりやマナーを守って生活している 達成 児童 81.3 教職員 88.0
	A2 教職員は、組織の一員として誠実に熱心に教育にあっている。〔全〕 【数値指標】 全体アンケートの「先生方は大切なことをしっかり教え、熱心に指導してくれる」→児童の肯定的回答90%以上	①「分かる・できる」授業づくりのために導入や指導方法を工夫する。 ②学習の進み具合を確かめながら、よさを認めた言葉かけやつまずきに応じた一人ひとりへの支援		A4 分かる授業やきめ細かな指導で学力向上を図っている 達成 100
	A3 児童は、授業と生活のきまりやマナーを守り、秩序があり安全な学校生活をしている。〔全〕 【数値指標】 全体アンケートの「児童は授業と生活のきまりを守って生活している」→児童の肯定的回答80%以上	① 朝会・全校集合の場や各学級において全職員共通理解のもと指導する。 ・授業の始まりの時刻 ・清掃中、清掃後の指導 ・教師が率先して早めに動く ② 「よい子の一日」の周知徹底を図る。 ・次時の準備 ・廊下の歩行 ・遊び方の共通理解 ・清掃指導の徹底 ③ 必ず成果を見取り、スモールステップで目当てをアップさせるようにする。		【次年度の方針】 ○徐々に改善の方向に向かっているが、さらに全教職員が共通理解し、指導を徹底する。 朝会や全体集合の場で、係が話をする。 ・授業の始まりの時刻 ・チャイムの変更とチャイム着席 ・清掃中、清掃後の指導 ・教師が率先して早めに動く ○「よい子の一日」の周知徹底を図る。 ・次時の準備 ・廊下の歩行 ・遊び方の共通理解 ・清掃指導の徹底
	A4 分かる授業やきめ細かな指導で学力向上を図っている。〔全〕 【数値指標】 全体アンケートの「教職員は分かりやすい授業や一人一人へのきめ細かな指導をしている」→教職員の肯定的回答90%以上	①学校課題を設定し、全職員共通理解のもと研究を進める。（言語活動） ②指導方法の工夫改善によるきめ細かな指導の実施		

	A5 日課、授業、学校行事など教育課程は、適切に実施されている〔全〕 【数値指標】 各行事終了後や節目節目でのアンケートを実施し、次に生かされたか。→その都度実施	① 行事の終了後や節目節目でのアンケートを実施し、次回・次年度に生かす。 ② 行事終了後等タイミングをとらえて積極的に地域へ情報を発信する。	A5教育課程の適切な実施 達成 <table><tr><td>教職員</td><td>100</td></tr><tr><td>保護者</td><td>94.9</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>100</td></tr><tr><td>児童生徒</td><td>92.4</td></tr></table> ・その都度実施し、可能なことはすぐに改善・実施している。 【次年度の方針】 ○積極的に地域へ情報を発信する。	教職員	100	保護者	94.9	地域住民	100	児童生徒	92.4
教職員	100										
保護者	94.9										
地域住民	100										
児童生徒	92.4										
学校運営の状況	A6 学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われ、「地域の学校づくり」が進められている。〔全〕 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、学校便りや学校公開などで積極的に情報を発信している」→保護者の肯定的回答80%以上	①「オープンスクール」を含め学期に2回以上学校公開を実施する。 ②より積極的に地域へ情報を発信する。 学校便り・ホームページによる情報の公開・発信 ・ 学校便り：月1回以上発行 ・ HPの更新：月1回以上	【達成状況】 A6地域の学校づくり 達成 96.1 A7家庭・地域との連携・協力 達成 91.0 A8学習にふさわしい環境 ほぼ達成 <table><tr><td>教職員</td><td>88.0</td></tr><tr><td>保護者</td><td>91.8</td></tr></table> A9教職員の指導力の向上 達成	教職員	88.0	保護者	91.8				
	教職員	88.0									
	保護者	91.8									
A7 学校と家庭・地域・企業等との連携・協力を図った取組が推進されている。〔全〕 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、家庭、地域、企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」→保護者の肯定的回答80%以上	① 外部講師と連携した授業の実施（外国語活動、クラブ活動、各種体験活動） ②「魅力ある学校づくり地域協議会」を有効に活用するとともに、学校運営の充実を図る。	B1心の教育を中心にすえた学習指導と特別活動の推進 達成 <table><tr><td>教職員</td><td>90.9</td></tr></table> 【次年度の方針】 ○さらに、清掃活動や校内緑化を推進し、学習にふさわしいよりよい環境づくりに努める。	教職員	90.9							
教職員	90.9										
A8 校内は、学習にふさわしい環境となっている。〔全〕 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、清掃が行き届き、学習しやすい環境である」→保護者の肯定的回答80%以上	①清掃指導の充実（西岡タイム）と施設設備の維持管理 ②校内緑化（花はなタイム）をさらに推進し、学習にふさわしいよりよい環境づくりに努める。	○一人一授業公開を行い、教職員の指導力の向上を図る。 ・ 道徳の校内授業公開 ・ 授業公開による授業改善 ・ 学級経営に関する情報交換									

教育活動の状況・健康・体力	生 活	A9・10 時と場に応じたあいさつと、言葉づかいをしている。〔全〕 【数値指標】 全体アンケートの「時と場に応じたあいさつ」→児童の肯定的回答90%以上 「時と場に応じた言葉づかい」→児童の肯定的回答の85%以上	① 年間8回のあいさつ強化週間を設ける。中学校との合同あいさつ運動を実施する。 ・登校班ごとのあいさつ運動の継続 ・全校生に拡大し意識化を図る。 ・あいさつをテーマにした標語募集 ② 「あいさつ大賞」を設け、あいさつ運動の活性化を図る。 ・あいさつや言葉づかいがよくできている児童を生かし、集団として伸ばす。 ③ 学校便り等で保護者や地域にも協力を呼びかける。	【達成状況】 A9時と場に応じたあいさつ 課題 87.7 A10時と場に応じた言葉づかい 課題 81.6 B3 縦割り班活動 ほぼ達成 教職員 96.0 保護者 97.5 地域住民 88.8 児童 94.4 【次年度の方針】 ○「あいさつ運動」を見直し全校生に拡大し、中学校との合同あいさつを実施し成果はあがったが、一人一人の児童についてはまだ2回程度しか回っていない。来年度も継続してさらに意識化を図る。 ・登校班ごとの「あいさつ運動」の実施 ・あいさつ大賞の継続 ・あいさつをテーマにした標語の募集 ・中学校との合同あいさつの継続 ○「きちんとした言葉づかい」については、これまでの取り組みが功を奏し、徐々に改善されてきている。今後もよくできている児童を生かし、集団として伸ばしていく。
	健康・体力	A11 毎日朝ごはんを食べ、好き嫌いなく給食を食べている。〔全〕 【数値指標】 全体アンケートの「好き嫌いなく給食を食べている」→保護者の肯定的回答90%以上	① 給食便りを定期的に発行するとともに、朝食をとっていない児童に対して、一人ひとりの状況に応じた適切な個別指導を行う。 ・生活チェックシートを活用し、個別指導（担任・養護教諭・栄養士等）をすすめる。 ② 「おべんとうの日」には、学年に応じて栄養のバランスを配慮した献立を意識するよう支援する。 ③ 「早寝早起き朝ごはん」を意識して生活できるように、家庭との連携を図る。 ・懇談会や各種便り等での啓発 ・「親学」に「食育」をとり入れる。	【達成状況】 A11 好き嫌いなく給食を食べている 課題 保護者 66.2 B9 朝ごはんを食べている 児童 91.8 B4 教育相談年2回・アンケート4回 達成 5月・10月 2回アンケート 7月・12月 2回相談・アンケート QU調査 【次年度の方針】 ○「親学」に食育を今後も取り入れる。 ○ランチルーム使用や身体計測後の機会をとらえて、栄養士や養護教諭が様々な啓発をする。 ○「おべんとうの日」には、学年に応じて栄養のバランスを配慮した献立を意識するよう支援する。 ○生活チェックシートを活用し、個別指導（担任・養護教諭・栄養士等）をすすめる。
	学 習	A14 授業に熱心に取り組む、基本的な学習態度・技能が身に付いている。〔全〕 【数値指標】 全体アンケートの「児童は授業中に先生や友達の話をよく聞くなど落ち着いて学習している」→児童の肯定的回答85%以上	① 学習の決まりについて学校全体で共通の取り組みを推進する。 ・授業開始時や終了時の時刻・あいさつを遵守する。 ② 「聞くこと」を重視し、根気強く繰り返し指導する。約束を共通理解の上、継続指導する。 ・話し手を見る。 ・話に耳を傾ける。 ・最後まで黙って聞く。（質問は最後にする）	【達成状況】 A14 話をよく聞いて落ち着いて学習している 達成 教職員 87.5 児童 85.9 B5 自主的家庭学習の取組 課題 児童 73.7 保護者 57.6 【次年度の方針】 ○学習時の基本的な態度について教職員の共通理解を図る。 ・話を聞く態度（話し手を見て黙って聞く）・集中して学習に取り組む態度

	B5 平成21年度全国学力調査・宇都宮市学習状況調査の結果をもとにした取組み 【数値指標】 全体アンケートの「児童は授業で習ったことを復習するなど自主的な学習に取り組んでいる」→児童の肯定的回答80パーセント以上	①学年に応じた家庭学習の習慣化に向けた取り組み。 ・西が岡小「家庭学習のすすめ」家庭学習のめやす、やり方や内容を児童や保護者に周知し、継続して支援していく。 ・自主学習への支援 学年に応じて、自主学習の内容を例示するなど手立てを講じる。 ・学級懇談等での保護者への啓発 ②豊かな感性の育成を目指した読書活動の推進。 ③読み聞かせだけでなく、自ら読書するような時間の確保と工夫を図る。	・落ち着かない子や私語の多い子に対する指導を徹底する。 ・忘れ物をしないようにさせる。 ・始業前の活動について徹底を図る。 ○保護者への啓発を図る。 ・学級懇談で、落ち着いた生活態度が学習時の態度にも大きく関わってくることを話し、保護者の理解を深める。 ○家庭学習の習慣化に向けて ・西が岡小「家庭学習のすすめ」の継続 家庭学習のめやす、やり方や内容を児童や保護者に周知し継続していく。 ・自主学習への支援 自主学習を進めていける意欲付けを図る。 「自主学習」の内容を具体的に示す 自主学習ノート1冊を終わる時期を示す 等
本校の特色・課題等	B7 異学年集団による交流活動をととして思いやりの心を育てる。 【数値指標】 教職員アンケートの「縦割り班活動を通して思いやりの心を育てている。」→教職員の肯定的な回答90%以上	①異学年集団による交流活動 (花はなタイム・遊友タイム・清掃活動・児童会集会活動等)を上級生がリーダーになって行う。 ②班対抗のゲームや活動を取り入れるなどして、活動に変化をもたらすように工夫する。 ③幼保小中連携の充実を図る。 (近隣保育園や中学校との交流活動)	【達成状況】 B7 異学年集団交流による思いやりの心 課題 教職員 84.0 B8 地域協力による体験活動 達成 教職員 100 【次年度の方針】 ○縦割り班活動に新しい活動を取り入れるなどして継続して実施していく。 ○出前授業や地域協議会等を活用し、さらに充実した体験活動を推進していく。
	B8 地域を知り地域に学ぶ活動をととして豊かな心を育てる。 【数値指標】 教師アンケートの「地域の方々の協力による体験活動の推進」→教師の肯定的な回答90%以上	①出前授業や地域協議会等を活用し、さらに充実した体験活動を推進する。(ふるさと教室、読み語り、各種出前授業、農業体験、栽培活動、総合的な学習の時間)	

〔総合的な評価〕

・20年度から今年度までの経年比較では少しずつ改善の方向に向かっており、数値指標として掲げた目標が達成できた内容が増えている。とはいえ、数値は一面的な結果であり、たとえ90%の肯定的回答が得られたとしても、残りの10%をどのように支援していくかも課題である。また、保護者・児童・教職員・地域住民のとらえ方の差が生じている内容があることも否めない。これらの結果を踏まえ改善策を講じることで、今後のよりよい学校教育の推進に生かしていければよいと考える。

6 学校関係者評価

- ・地域協議会の委員として、地域・自治会の会議や会合など機会があるごとに学校教育の現状を伝えるよう努めている。
- ・登下校時に、とても気持ちのよい上手なあいさつをしてくれる児童がいる反面、下を向いて通り過ぎてしまう児童もいる。元気にあいさつできる子どもがどんどん増えていくとよい。
- ・今後も学校公開日や行事等にできるだけ足を運び、学校の様子が分かるようにしたい。

7 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

- ・学校・家庭・地域がさらに連携し、人との関わりを大切にしながら生活し正しく判断・行動できる児童の育成に努める。
- ・基礎基本の確実な定着を図るため、さらなる学習態度の徹底や家庭学習の習慣化を図る。
- ・指導力の向上を目指しての一人一授業を公開し、「わかる・できる」の授業改善に努める。
- ・積極的な情報発信・公開・評価を行うことにより、さらなる学校教育の改善に生かす。